

知ることから始めよう

～カンボジアを通して開発途上国という言葉を知ろう～

藤井 園子

横浜市立滝頭小学校

◆担当教科：全教科 ◆実践教科：総合的な学習の時間 ◆時間数：6時間 ◆対象学年：小学4年生 ◆対象人数：36名

## 指導案

### (1) 実践の目的

- ・日本以外の世界の一つの国として、カンボジアに焦点をあて、国の様子や文化、習慣に興味を持ち、その国で生活する子どもたちの生活を知る。
- ・「開発途上国」という言葉を知り、その国が抱えている問題に目を向けて、自分たちにできることは何かを考えるきっかけをつくる。また、研修で出会った現地で働く日本人の活躍を知り、技術を伝えることも開発途上国にとって大切な支援だということを知る。

### (2) 授業の構成

| 時限 | テーマ・ねらい                                                                                | 方法・内容                                                                              | 使用教材                                                                              |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | <p>地図帳・地球儀を使って・・・<br/>「カンボジア」はどこにあるの？</p> <p>ねらい：世界に興味を持ち、一つの国に焦点をあててその国について興味をもつ。</p> | <p>(1) 地図帳・地球儀を使って数カ国の地域と位置、国の様子を知る。</p> <p>(2) カンボジアの世界遺産や食べ物を写真で紹介し、位置を確認する。</p> | <p>(1) 地図帳・地球儀</p> <p>(2) 写真（アンコールワット、食べ物など）</p>                                  |
| 2  | <p>カンボジアの小学生に日本の小学校のことを知ってもらおう。</p> <p>ねらい：自分の国のことを相手に伝えることで目的意識をもって、カンボジアにふれる。</p>    | <p>(1) カンボジアの小学生に日本の小学校について知ってもらうために、プレゼントを作ろう。</p> <p>折り紙・習字・学校紹介</p>             | <p>(1) 折り紙・習字セット</p>                                                              |
| 3  | <p>トゥック モック<br/>ニョニウム カンボジア</p> <p>ねらい：カンボジアの食事、生活について具体的に知り、その国の子どもたちのようすに興味をもつ。</p>  | <p>(1) 写真やクイズでカンボジアの食事や生活、伝統文化について知る。</p> <p>(2) カンボジアの小学生の学校生活について知る。</p>         | <p>(1) 研修で購入した本、影絵、遊び道具、おかし、お金。</p> <p>(2) パワーポイントでカンボジアの紹介をする。</p> <p>ワークシート</p> |
| 4  | <p>カンボジアの小学校に転入してみよう</p> <p>ねらい：カンボジアの小学生の一日の様子と自分の生活を比べる。</p>                         | <p>(1) カンボジアの子どもの一日の生活スケジュールを比べる。</p> <p>(2) 実際にカンボジアの小学生が使っている教科書の問題をといてみる。</p>   | <p>(1) ワークシート<br/>研修でインタビューした子どもの写真</p> <p>(2) カンボジアで購入した教科書</p>                  |

|   |                                                                                                   |                                                                                                                       |                                                |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 5 | <p>この子どもが？想像してみよう</p> <p>ねらい：写真の中からその子の生活のようすを想像し、抱える問題について考える。</p>                               | <p>(1)自分たちのプロフィールを書く。</p> <p>(2)グループで写真の子どもたちのプロフィールについて考える。(フォトランゲージ)</p>                                            | <p>(1)研修中に撮影した写真、事前研修でもらった写真</p> <p>ワークシート</p> |
| 6 | <p>何を表す数字でしょう？～自分たちにできることを考えよう～</p> <p>ねらい：数字を通して「開発途上国」という言葉を知り、その国に生活する人たちにどのような支援ができるか考える。</p> | <p>(1)数字クイズから、開発途上国という言葉の意味とそれはどのような国かを知り、自分たちにできることは何かを考える。</p> <p>(2)カンボジアも開発途上国であり、カンボジアの人たちのために働く日本人がいることを知る。</p> | <p>(1)パワーポイント</p> <p>ワークシート</p>                |

### 授業の詳細

#### 第1時：「カンボジア」はどこにあるの？(カンボジア渡航前に実施)

- (1)地図帳・地球儀を使って数カ国の地域と位置、国のようすを知る。
- (2)カンボジアの世界遺産や食べ物を写真で紹介し、位置を確認する。

児童は4年生の社会から地図帳を使う。社会の毎時間、はじめの5分で世界地図クイズを行っている。普通の授業が苦手な児童でも、世界地図から指定した国を探すことに大変興味をもって活動に取り組んでいる。そこで、「カンボジア」の場所も探してみようと投げかけた。あまり聞いたことのない国、地図上では小さい国ということではなかなか見つけられなかったが、友だちと協力して見つけることができた。ここで、私が今度カンボジアに渡航することを話した。「カンボジア」を知っているかを質問したが、ほとんどの児童が聞いたこともなかった。一人の児童が「アンコールワットが有名な世界遺産としてある。」と発言したところで、アンコールワットの写真を提示した。大きな石で作られた遺跡だと話すと児童からは大きな驚きの反応があった。カンボジアの小学校を訪問することを話した。カンボジアの小学校や小学生の様子を見てくるので、みんなも何か自分たちのことを伝えてみないか、と提案した。

#### 第2時：カンボジアの小学生に日本の小学校のことを知ってもらおう(カンボジア渡航前に実施)

- (1)カンボジアの小学生に日本の小学校について知ってもらうために、プレゼントを作ろう。

自分たちの学校生活や身近な文化を知ってもらうために、折り紙、習字、学校や学校で使う教材についてのポスターを自分で希望するグループに分かれて作成した。自分たちのことを相手に伝えることで目的意識がつくように考えながら声かけをした。

#### 児童の感想

- ・喜んでくれたら良いな。
- ・カンボジアの子どもたちが習字は楽しいな、という気持ちになって欲しいな。
- ・学校生活の紹介は日本語で書いたけれど、読んでもらえるか心配です。

### 第3時：トゥック モック ニョニユム カンボジア(笑顔でカンボジア)

(1) 写真やクイズでカンボジアの食事や生活、伝統文化について知る。

(2) カンボジアの小学生の学校生活について知る。

クイズ形式にしながらパワーポイントでおおまかなカンボジアの紹介をした。場所、人口、世界遺産、食べ物、伝統文化など。児童は日本以外の国について詳しく知る機会が今までなかったので一つ一つの写真に興味をもち、反応した。特に住居と小学校には特に興味を示した。

住居については2枚の建物の写真を提示した。



どんな場所にある家でしょうか？



C：砂、土、海・・・  
T：正解は川の上にある家です。  
C：雨がたくさん降って川の水が増えたらたいへんだ。



家の下はどうなっているでしょうか？



C：車がある、川、2階建て・・・  
T：正解は牛を飼っています。  
C：ペットかな？  
C→児童 T→教師

自分たちの住んでいる環境とはまったく違うことに驚いていた。また船の上で生活する家族について話もした。色々な暮らしがあることを理解した様子だった。

研修で訪れた「ワット・ポー小学校」の写真を提示した。児童が作ったプレゼントが届いている写真を見て本当に違う国の人に届くという実感を得て、カンボジアの存在が近くなった様子だった。そこで、ワット・ポー小学校の全校児童の数のクイズをする。

T：ワット・ポー小学校は全校児童何人でしょう？

- 1 約500人
- 2 約1000人
- 3 約5000人

自分たちの学校規模と比べて、ほとんどの児童が500人と答えた。

T：正解は「3」の5000人です。でも教室は55教室しかありません。一つの教室に40人入ったとしたら、125教室ないと足りないよ。どうしていると思いますか。

C：ぎゅうぎゅうになって教室の中に入っている？

C：教室の外で勉強している？

T：実は実際には、5000人の子どもたちが登校しているわけではないのです。学校に登録はしているけれど、家の仕事を手伝うために学校に行かなくて良いて親に言われて学校にきていない子が5000人の内1500人いるのです。

「良いな、学校に行かなくて。」と言う子もいたが、「友だちに会えない。」「学校に行かなければ勉強できないな。」「家の仕事ばかり手伝うのはいやだ。」と言う子もいた。

この授業は保護者の参観日に行った。渡航前から子どもたちにカンボジアの話をしていたことで、保護者にも私がカンボジアに行く話が伝わっており、家で少し話しをしてくれている家庭もあった。保護者の方のほとんどがカンボジアは貧しい国だという意識があったようだが、いきいきと生活しているカンボジアの人の写真を見て違った一面をみることができたと話してくれた方もいた。

### 児童の感想

- ・カンボジアのことは知っていることがあったけれど、また少しわかりました。私もカンボジアや他の国に行ってみたいです。
- ・写真や説明をしてもらって、カンボジアに行きたくくなりました。1度カンボジアの学校に行って一緒に授業をしたくなりました。
- ・カンボジアの小学生(ワット・ポー小学校の生徒)に会ってみたいです。(ワット・ポー小学校の生徒の楽器演奏のビデオを見て)私たちの演奏をきかせてあげたいです。
- ・カンボジアには日本と違うところがたくさんあってわかりにくかったです。けど、(写真に写っている人は)みんなとてもうれしそうな顔をしていました。
- ・カンボジアには日本ではありえないことがあってびっくりしました。とくに、トイレは自分で水をすくって流すことはびっくりしました。
- ・カンボジアでは神様を大事にして、願っているということがわかりました。
- ・地雷とかがたくさんあると聞いていて、心配だったけど写真では平和そうでした。

## 第4時：カンボジアの小学校に転入してみよう

(1)自分の一日の生活スケジュールを書き表し、カンボジアの子どもの一日の生活スケジュールと比べて違いを見つける。

(2)実際にカンボジアの小学生が使っている教科書の問題を解いてみる。

自分の一日の生活スケジュールを書き表した後、カンボジアの小学生2人の生活スケジュールと照らし合わせた。カンボジアの小学生2人の生活スケジュールは研修中に出会った船で生活している少女とクメール伝統織物研究所(IKTT)で生活する男の子のものを使用した。自分たちとの大きな違いは、学校が午前中で終わるということ。そして、午後からは家のお手伝いをするという。児童はなぜ早く終わるのかという視点よりも、早く終わってうらやましいという視点に目が向いてしまった。そこで、前時の内容で大人数の子どもたちが小学校に通っていることを思い出させ、午前、午後二部制に分かれて授業をしていることを伝えた。また、学習時間が少なくなることで身につく知識の量が減ることを考えさせた。

次にカンボジアの小学生が使っている教科書の問題を解くことにした。はじめは小学4年生の問題をとくことにしようと思ったが、クメール語で書かれているので言葉を理解するのは非常に難しいと判断し、小学1年生の算数の問題をといた。挿絵が多かったので友だちと相談しながら協力して問題を解いていった。最後に小学4年生の教科書を見せた。自分たちが学んでいる内容とほとんど同じようなのに、難しそうという印象を受けたようだった。言葉が違うと内容を理解することが難しくなる、という意識がもてた様子だった。また日本の教科書と比べて、「色がぜんぜんついていない」という意見も出た。

### 児童の感想

- ・カンボジアはクメール語をつかっていて、数字が違っていました。数字は世界共通じゃないところもあるということがわかりました。
- ・クメール語は漢字と違って角がすくなく、くるくると丸に近い字形だと思いました。
- ・日本の字や数字と違っていました。
- ・カンボジアにも本やマンガがありました。
- ・カンボジアの教科書の中身はすべて白黒になっていました。
- ・私にとっては日本よりカンボジアの学習内容の方が難しいと思いました。
- ・先生が足りないなら増やせば良いと思いました。
- ・先生が足りていないのが、少し残念だと思いました。

### 第5時：この子ども？想像してみよう

(1)自分たちのプロフィールを書く。

(2)グループで写真に写る子どもたちのプロフィールについて考える。(フォトランゲージ)

まず、本時では、自分のプロフィールを書いて友だちと見せ合った。

☆ 自分はどんな子？まずは書き出してみよう！

|        |  |
|--------|--|
| 好きな教科  |  |
| 今ほしいもの |  |
| 将来の夢   |  |
| 楽しい時   |  |

そして、カンボジアの子どもたちの写真を5枚提示した。ここで提示した写真2枚は今回の教師海外研修で撮影したもの、3枚は国内事前研修で使用した以前カンボジア教師海外研修に参加された先生のものを使わせてもらった。数年前の写真と現在の写真とでは背景のようすが異なっていた部分があったからだ。8つのグループに分かれて、それぞれの写真を見てその中の子どもたちについて考えさせた。

(1)年齢 (2)この写真の子がいる場所はどのようなところ (3)好きな教科 (4)今ほしいもの (5)将来の夢

グループでの話し合い活動は日頃からなるべく取り入れるようにしているので、児童は役割分担を決めながら活動に取り組んでいた。話し合いが終わり、グループで話し合ったことを紹介してもらった。その後、それぞれの写真の正解についての紙を提示した。そして自分たちのプロフィールと比べてもらった。はじめは年齢や場所を答えるのが簡単で各グループからたくさん意見がでたが、今回は特に「今欲しいもの」の項目で比べたいということを話した。

【カンボジアの子どもたち】

文房具・自転車・知識・お金

【4年2組の子どもたち】

服・文房具・パソコン・ゲームのカセットや本体

比べてみるとカンボジアの子どもたちは今すぐ使える生活必需品、もしくは現金、そしてお金では買えない知識がほしいということと、日本に住んでいる自分たちの欲しいものは生活になくても不便にならないものだということが比べられた。

### 児童の感想

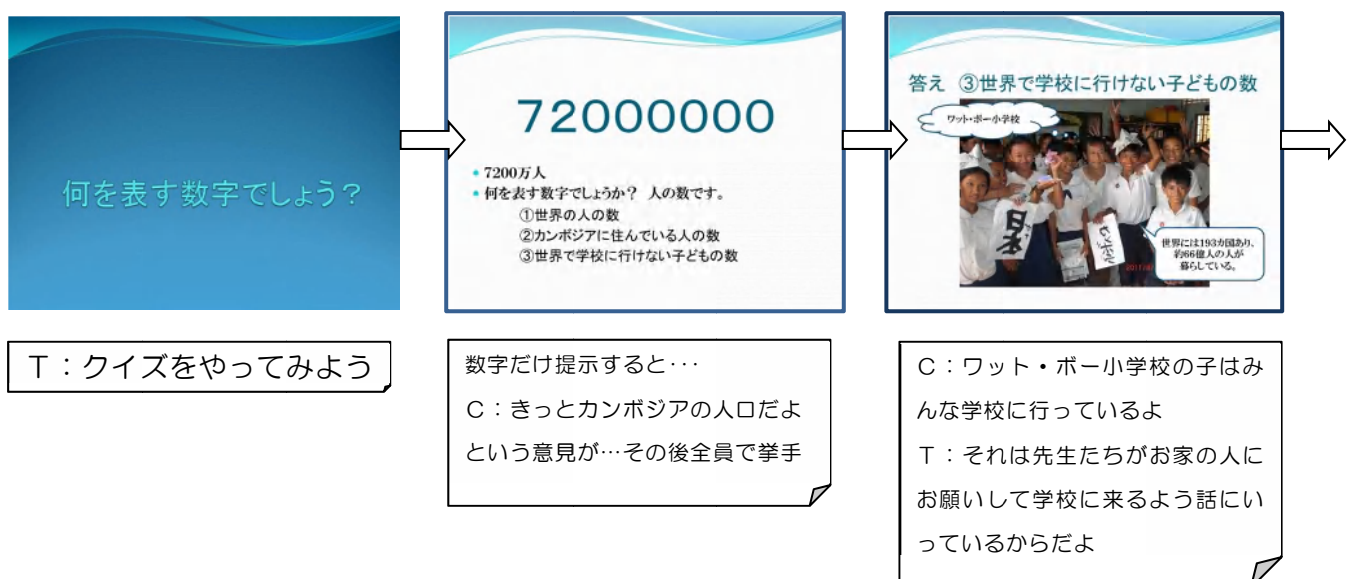
- ・ (フォトランゲージをして)それぞれのグループで話し合っただけの結果が違ったので、どれが正解か自分が思っていた結果が合っているかを知るのがワクワクしました。
- ・ 写真を見て物が少なくて貧しいのかなと思いました。
- ・ 私たちの住んでいるような安全な町じゃなくて、村や山に住んでいるのに驚きました。
- ・ カンボジアの子どもたちはみんなが日常生活の物が欲しいと思っていて、すごいということかなんとか…分からなくなりました。
- ・ カンボジアの子どもたちが欲しいものは、生活に必要なものやお金で買えないものだということがわかりました。
- ・ 日本の生活と全然違っていました。
- ・ 自分も持っているものをカンボジアの子どもが欲しいとっていました。
- ・ 年齢と学年が違って驚きました。
- ・ グループで話し合っていると将来の夢も今ほしいものも自分と違って驚きました。

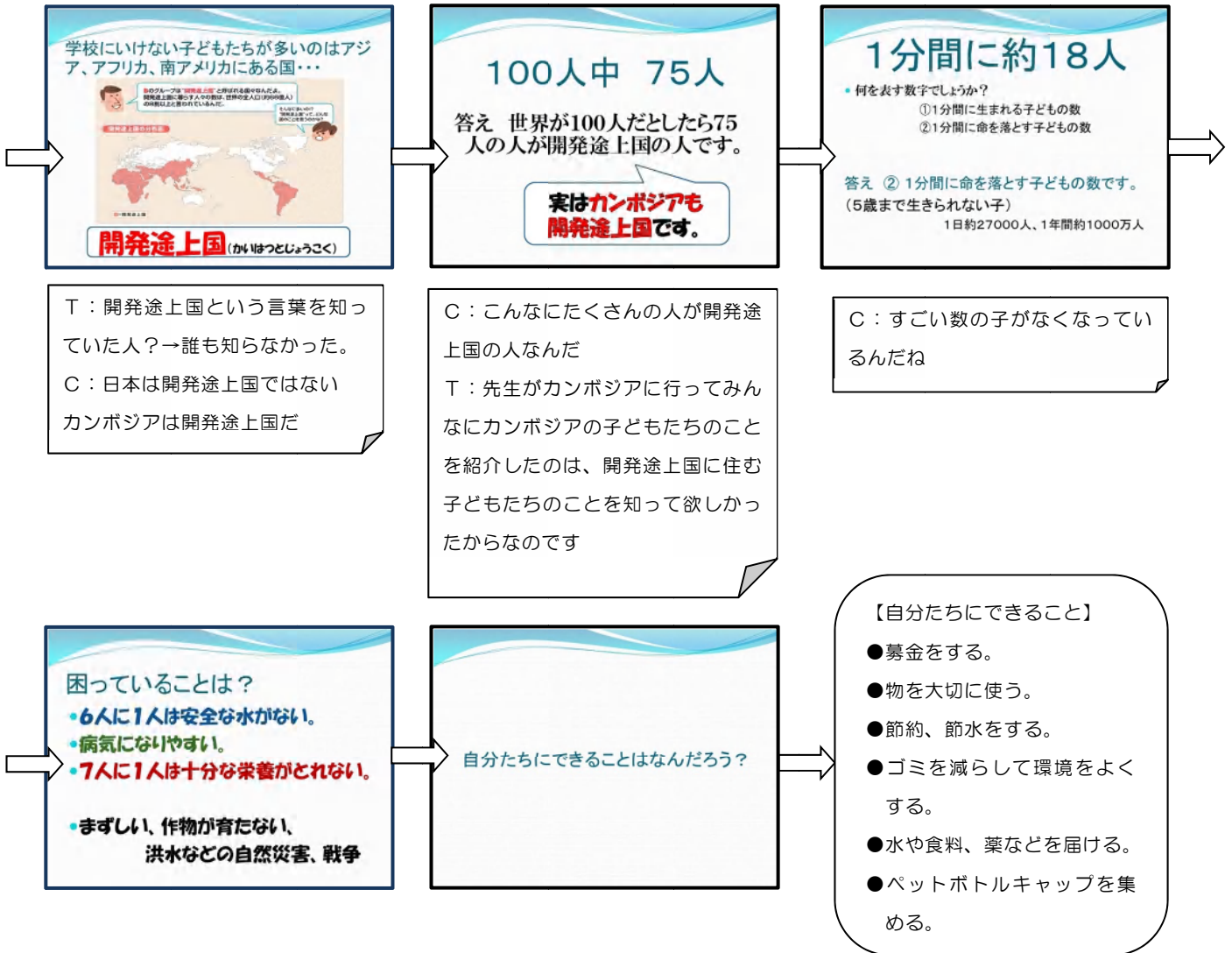
### 第6時：何を表す数字でしょう？ ～自分たちにできることを考えよう～

(1) 数字クイズから、開発途上国という言葉の意味とそれがどのような国かを知り、自分たちにできることは何かを考える。

(2) カンボジアも開発途上国であり、カンボジアの人たちのために働く日本人がいることを知る。

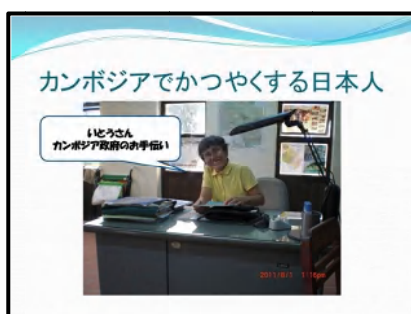
学習のまとめとして「開発途上国」という言葉を知るために、カンボジアから離れて世界全体をみた数字クイズをパワーポイントを利用して行った。この内容は「学校にいきたい 国際協力とわたしたち」という JICA リーフレットを参考に作成した。

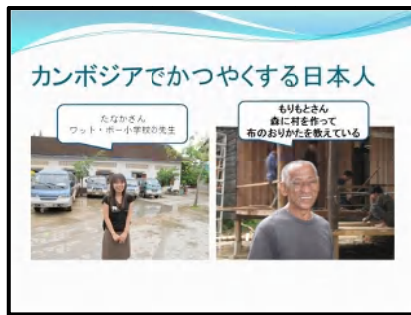




本校では、12月にユニセフ募金を行っているので、募金についてはすぐに児童も思いついたようだった。また、社会でゴミや水の学習を行ったことで自分たちの身の回りのゴミや水について考えが浮かんだようだ。ペットボトルキャップ回収運動も行っているのでこういった内容の「自分たちにできること」があげられた。普段の自分たちの生活とは繋がりにくい問題なので、なかなか考えが浮かばない子もいた。カンボジアの子どもたちの学習を通して、今回初めて「開発途上国」という言葉を知り、自分たちに何ができるのか考える機会にしたかったのでこのようなまとめにした。

最後に、募金や物を与えるだけが開発途上国であるカンボジアの人の助けになるというわけではなく、「技術」を伝えている多くの日本人がカンボジアで活躍し、その国がより良くなるように助けをしていることを話した。





### 児童の感想

- ・日本人が他の国のために国に入って、技術を教えていてすごいと思いました。
- ・日本から開発途上国に行き、助けている人がいることを知りました。
- ・私達のように安全な暮らしをしていない人がいて、安全で楽しい暮らしにした方が良くと思いました。だから今自分にできるゴミを出さないことや環境をよくすることをしていきたいと思いました。
- ・貧しかったり、命を落としてしまう人が多かったりする国で悲しい思いをたくさんしていると思うのに、みんながその気持ちを紛らわす楽しいことって何か疑問に思いました。私だったら、励まし合って友達と遊んで楽しいことを考えると思います。
- ・日本人が技術を教えることであまり貧しい環境じゃなくなると思います。まだ僕にはできないので、身近でできることをしていきたいです。
- ・日本の先生がカンボジアの小学校で授業を教えているのがすごいと思いました。
- ・開発途上国はカンボジアだけでなく、世界にたくさんあるんだということが分かりました。
- ・日本では普通なことが、カンボジアではできていないことがありました。技術を学びに日本に来て欲しいです。
- ・世界には開発途上国というのがあって、その国は安全な水がなかったり栄養が十分ではなかったりする人がいるということが分かりました。

### 成果と課題

#### 〔成果〕

もともと世界の国々に興味をもっている子が多かったので、「カンボジアという国についての学習をする」と話した時、児童は何の抵抗もなくすんなりと入り込むことができた。違った国の文化や生活をじっくり知るのみんな初めてだったので、私自身が体験したことを多く話しながらカンボジアの様子を知っていくことで、興味関心がたくさんわいた様子だった。とくに、日本と違ったところでぐっと興味をもったようだった。何人かの児童は図書室から本を借りてきて読んでいた。

コミュニケーション能力の向上を目的に日頃から、グループでの話し合い活動を多くとるようにしたので、互いに意見を出し合い協力して考える姿がみられた。普段の学習内容とは違った分野だったので児童も意欲的に話し合い活動に参加できたのだと思う。

小学4年生ということもあり、ほとんどの児童が「開発途上国」という言葉を聞いたこともなく、ど



のような国なのかも知らなかったのでカンボジアを通して言葉とその国の様子を知れたのは本当に良かったと思う。また、私自身も現地研修の前に行われた事前研修で「技術をつたえる国際貢献」について初めて知り、それについて児童と考えることができ良かったと思う。児童も「なにかしてあげる」＝「募金、物をあげる」という意識が強かったが、「技術」を伝えることで開発途上国の助けになるということを知ることができた様子だった。

#### 〔課題〕

毎時の授業の中に内容を盛りだくさんにしすぎていたので、児童が考える時間をじっくり取ることができなかったように思う。今回は私自身もこのような授業をするのは初めてだったので、授業の流れを組み立てるのに相当頭を悩ませた。伝えたいこと、知ってほしいこと、現地で得た情報、写真、映像、色々あったが、ほんの一部しか使わなかった。必要な素材を選び出し教材にしておくことの大切さを学んだ。今後の高学年の学習につながっていくきっかけ作りになればと思ったので多くの情報は伝えなかったが、果たしてこれだけで良かったのかと思う。研修で得た情報、写真、映像、資料は大切に保管し、それぞれの学年に合った部分を取り出し、児童と一緒に学びを作っていきたいと思う。

本校では11月から1月にかけて教職員同士の授業を互いに参観し合い、協議する週間が設けられている。今までの経験からより良い授業にするためにはどうしたら良いのかという助言をたくさんの先輩から聞くことができた。児童や学校、地域の実態にあった授業内容を構成させていくことが大切だということも学んだ。いろいろな切り口があり、取り組み方法があることもわかった。開発途上国と日本の繋がりは、日頃の児童の生活とは繋がりにくいため、特に知る機会や必要性がないと判断されてしまうが、その繋がりをいかに身近なものにし、考える必然性をもたせるかが今後の課題であると感じた。

#### ◆参考資料

- JICA HP 「どうなってるの？世界と日本」
- JICA 「学校に行きたい！国際協力とわたしたち」
- 横浜市水道局 水道事業人材育成プロジェクト 報告 PP より